

1. 特に効果的であり改善に資した事例

B. 円滑な学位授与の促進

③論文作成支援の充実

③論文作成支援の充実

《人社系》

●南山大学国際地域文化研究科国際地域文化専攻

「多文化社会対応企業人・教員養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

文化的・社会的共生のダイナミズムを理論的・かつ実証的に解明する能力獲得をもとに高水準で独創性に富む修士論文の作成を支援するため、ネイティブのGP嘱託講師による英語表現上の技術的サポートとともに、初年度およびその翌年度に実施した「アメリカ研修」や最終年度に実施した「在外研究調査」に対する助成を行った。「アメリカ研修」や「在外研究調査」においては、各自の修士論文の執筆に向けた準備作業の一環として、現地での資料収集、関係者へのインタビューなどの実地活動がなされた。また、本大学を主催校として開催された「名古屋アメリカ研究夏期セミナー」の一環である「国際大学院生セミナー」では、準備中の修士論文について英語による報告を求め、海外の院生からの批判を得ることにより、修士論文のレベルアップを目指した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

「在外研究調査」に対する助成にあたっては厳正なる選考を行った。また、旅程全般の設定、学会の選定・参加申請、訪問する海外研究者の人選・アポイントメント等のアレンジメントのすべてを院生に委ねて院生の自主性、主体性が最大限発揮されるよう配慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「アメリカ研修」ならびに「在外研究調査」に対する助成の実施は、在外調査に伴う経済的負担を軽減することで、各院生が研究活動に一層専念できる環境・条件を整えるうえで大変有意義であった。とくに「在外研究調査」の助成対象の各院生は、現地での実地調査を通じて、系統だった資料収集や、関係者との意見交換・人脈作りを行うことができたことで修士論文の論点のさらなる深化が図られた。

●立命館大学政策科学研究科政策科学専攻

「地域共創プロデューサー育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

行政の有する公共性と大学の有する客観性をうまく組み合わせることで、「地域共創サイト」およびそれらを介して外部の民間機関等への参加が容易となり、論文執筆のための対象に接触しやすくなった。これにより、大学院生特に前期課程院生による修士論文の執筆の前段となるレポートの作成を支援することができた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院生に対しては派遣期間中、週間レポートの提出を義務付けていた（ウィークリー

1. 特に効果的であり改善に資した事例

B. 円滑な学位授与の促進

③論文作成支援の充実

レポート)。このレポートの内容が単なる業務報告ではなく、なるべく研究的な位置付けのある内容になるように、毎週の指導に特に注意した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

個々の派遣院生が執筆したレポート、および研究科が実施したシンポジウムやセミナーの内容はPolicy&Governance というニュースレターの発行のための材料にもなり、広報や地域共創へのフィードバックのために活用できた。また、最終年度には『地域共創と政策科学』(晃洋書房) という著書を発刊することにもつながり、研究科の研究活動の推進に寄与した。

《理工農系》

●東京工業大学理工学研究科原子核工学専攻

「個性を磨く原子力大学院教育システム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

研究リテラシー教育を実施した。本教育の目的は、研究リテラシーの基礎的な能力の育成を図り、もって本格的な修士論文研究及び博士論文研究を通じた研究リテラシーの効果的な習得に資することである。この目的のために、研究リテラシー教育では、新しい知識を生み出すための創造思考の方法に関する知識の習得(創造思考教育)と、研究業務の仕方に関する知識の習得(研究業務教育)の両面から、専門分野横断的な汎用的、基礎的な教育を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

まず最初に具体的な大課題を学生に提示し、学生はその大課題の下で問題探究を行って具体的な課題を設定し、さらに、その課題の下で自ら問題解決を行うという一連の研究行為を実践的に体験してもらうことにした。学生に提示した大課題は、本専攻における種々の専門分野を視野に入れた上で専攻の教員が組織としてあらかじめ検討し、専攻として決定した上で学生に提示した。また、教員も参加した研究課題発表会、研究成果発表会を通じて、組織的研究指導により研究リテラシー教育を実施した。これらの課題発表会及び成果発表会のそれぞれの後に、学生自ら自分の習熟度を点検し、教員と意見交換を行う習熟度点検のための個人面談の実施を企画した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

アンケート調査結果では、学生の約70%が有意義であったと回答し、当教育に対する印象を複数回答可で選択してもらったところ、最も頻度が高い選択肢は、「研究業務のやり方の習得に役立った」、「課題設定の思考を理解できた」、「問題発見の思考を理解できた」で同数であった。従って、当研究リテラシー教育が目標とした、創造思考の方法に関する知識の習得を目指した創造思考教育と、研究業務の仕方に関する知識の習得を目指した研究業務教育は、概ね良い結果を学生に与えたと言える。